

県立工業技術センター研究課題評価シート【令和元年度】

[事後評価]

No.	研究課題名	研究の概要 研究の成果	評価結果及び委員コメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
1	<p>アレンジワインダーを用いた空糸の意匠性向上に関する研究</p> <p>繊維工業技術支援センター</p> <p>平成30年度 (1年間)</p>	<p>織物の意匠性の向上は、播州織をはじめとする織物産地において競争力を向上させる有効な手段である。</p> <p>当支援センターの技術シーズであるアレンジワインダーを撚糸工程に用いると、これまでに無い新たな意匠の空糸作成が可能になり、織物の意匠性向上に大きな効果がある。</p> <p>アレンジワインダーで繋いだ糸を2～複数本合わせて撚糸することで、従来は色の組み合わせのみであった意匠撚糸の一種である空糸（複数の色糸を撚り合わせた糸）の表現が、任意の糸を任意の周期でそれぞれ独立して変化させることが可能となり、表現の幅を大きく広げることで意匠性の向上を目指した。</p> <p>その結果、6色の色糸を用いてアレンジワインダーで空糸を作成し緯糸に用いて製織した結果、ボーダー柄の色の境目をグラデーション化することに成功した。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意匠性の向上という点では面白い。 ・高付加価値化に向かって着実に進歩している。 ・空糸の表現が任意の糸を任意の周期で独立して変化させ意匠性の向上に寄与した成果は評価できる。 ・着眼点はとてもよいが、“キレイ”についての定量性のポイントが不明瞭だった。 ・グラデーションが実現でき、試行できることは分かった。しかし、効果検証がないのは残念である。 ・できることは分かったが、あらかじめどのようなようにしようとするればよいのか、プロセスを明らかにするとよいのではないか。 ・付加価値の向上、他産地との差別化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作したいデザインに対して織柄の特長を出せるようにすることも検討していただきたい。 ・企業ニーズをもっと明確に示された方がわかりやすかった。 ・まずは狙い通りの結果が得られたかどうかを数値的に検証することが必要である。そのためには一般ユーザーやデザイナー（専門家）とのコラボが必要である。 ・得られた成果を活用することができるようユーザーのニーズを把握していただきたい。 ・デザインの原本から空糸の設計工程の作業効率化が必要。